

サピックスキッズ合格者親子座談会

幼少期から身についた学習習慣が
長い受験生活を支える強固な基盤に
自然なステップアップで志望校に合格

ご出席者の皆さま

青山学院中等部 進学/J.U.さん と お母さま

渋谷教育学園幕張中 進学/K.W.さん と お母さま

駒場東邦中 進学/K.S.さん と お母さま

司 会

石垣知子 先生（サピックスキッズ事業部）

原田正倫 先生（サピックス小学部 教務本部）

サピックスキッズは、年中・年長のお子さまを対象に、教科学習の土台となる「考える力」「表現する力」を養う幼児教室です。今回は、そのサピックスキッズとサピックス小学部の両方で学び、この春、志望校に合格した3人の卒業生とその保護者の方にお集まりいただき、サピックスキッズやサピックス小学部での思い出、志望校を決めた時期やきっかけ、日々の学習への取り組み方など、合格までの道のりをそれぞれの目線で振り返っていただきました。長い受験生活を乗り越えた先輩方のアドバイスは、これから受験を迎えるサピックス生にとって、大きな励みになるはずです。ぜひ参考になさってください。

学びと遊びの境目なく育てる サピックスキッズの方針に共鳴

原田 皆さん、合格おめでとうございます。長い受験生活を終えて、今の率直な気持ちを聞かせてください。

K.S. 受験を終えた達成感と、志望校に合格した喜びで胸がいっぱいです。その一方で、「もう、サピックスには通えないんだ」と思うと、寂しさがあります。

K.W. わたしも、サピックスで仲の良かった友だちと会えなくなったことはとても残念ですが、今は小学校の友だちと遊ぶなど、これまで受験でできなかったことを存分に楽しんでいます。

J.U. 合格できてほっとしています。受験直前期は、緊張や不安で眠れない日もありましたが、今はとても穏やかな気持ちで過ごしています。英語と数学の勉強も始めています。

石垣 よくがんばりましたね。わたしの記憶にある皆さんは、かわいらしい印象が強いので、大きく成長された今の姿に深い感慨を覚えます。さて、次はお母さま方に伺います。サピックスキッズに入室したきっかけと、実際に通ってみて感じた印象を教えてください。

K.S.母 以前から、サピックスの評判は耳にしていたので、将来的には息子を小学部に通わせたいと思っていました。そんな折にサピックスキッズのことを知り、体験授業に申し込んだところ、息子がとても楽しそうにしていたので、そのまま入室を決めました。サピックスキッズの教材には、旬の野菜や果物、折り紙、ブロックなど身近な題材が取り上げられており、実際に自分の手を動かして学ぶことが重視されています。心がけていたのは、その日に学んだ内容を自宅でも再現することです。それがあったからこそ、幼いうちから難なく家庭学習を習慣化することができました。

K.W.母 もともと幼児教育の「KUNOメソッド」に興味があり、「小学校受験をするわけではないけれど、そのメソッドを取り入れた教材で学べる教室はないか」と調べていたところ、見つけたのがサピックスキッズでした。幼児期から手を動かしたり、具体物を使って思考を巡らせたりする機会を大切にしたいと考えていたので、思考力の養成に重きを置いたサピックスキッズの教育はわが家にぴったりだと感じました。一人っ子の娘にとって、年齢の近いお友だちと一緒に過ごす時間は大きな刺激にもなり、親のわたしもテキストや先生のお話を通して、子ども特有の視点に気づかされるなど、親子でたくさんの学びを得ることができました。

J.U.母 子どもを「学びと遊びの境目なく育てたい」と考えていたわが家にとって、その思いを後押ししてくれると感じたのがサピックスキッズでした。先生方は、それぞれの個性や特徴に合わせて、子どもたちが「やってみようかな」と思えるような声掛けをしてくださいます。それが、子育てに悩むわたしにとって、とても良いお手本になりました。授業は毎回同じ先生が担当されるので、子どもの成長過程を細かく観察したうえで、的確なアドバイスをくださるのも、非常に心強かったです。

サピックスキッズと小学部に共通する 「知りたい」を引き出してくれる授業

原田 サピックスキッズを卒業した後、サピックス小学部で学ぶことになりますが、初めての授業の印象などを教えてください。

K.S. サピックスキッズと小学部との共通点は、ぼくたちの「知りたい」という気持ちをうまく引き出してくれるところです。サピックスキッズと比べて勉強の色合いが濃くなったのは確かですが、比

較的スムーズに慣れることができました。

K.W. わたしが小学部に入室したのは、サピックスキッズを卒業して2年後の3年生のときです。その時点では、まだ中学受験をすると決めていたわけではありません。中学受験に向けた授業が本格的に始まるのは4年生からと聞いていたので、1年間通ってみて、中学受験をする気になったら、4年生以降も継続してみようという気持ちでした。たまたまチャレンジとして実際の入試問題を解いて手応えがあると、サピックスキッズのころとはまた違った達成感を味わうことができました

K.W.母 娘の話に補足すると、1年生の時点で小学部への入室を見送ったのは、小学校の生活リズムの確立を優先させたかったからです。また、旅行などを通して好奇心を育むためでもありました。次第に本人が「学校の勉強だけでは物足りない」と言い出したことや、自宅で『きらめき算数脳』に夢中になって取り組む姿を見て、サピックスの環境が娘に合っているのではないかと思うようになりました。実際に入室して、サピックスキッズの授業にも通じる、知的好奇心を刺激する学びが娘にとって魅力的だったのでしょう。「中学受験をしたい」「4年生以降も通いたい」と言うので、そのまま継続することになりました。

J.U. 小学部に進んだときに感じた大きな違いは、先生の厳しさです(笑)。サピックスキッズに通っていたころは、教室で泣くこともあったのですが、小学部には、幼いながらに「ここでは泣いてはいけない」と感じるぴりっとした雰囲気がありましたね。でも、授業の内容はとてもおもしろくて、毎回楽しみにしていました。

石垣 皆さんは、サピックスキッズやサピックス小学部のほかに、どんな習い事をしていましたか。また、どのように両立していましたか。

J.U. 1年生から外国人講師によるオールイングリッシュの学童に通っていたほか、ピアノとサッカーを習っていました。ピアノは4年生まで、サッカーは5年生まで続けました。特にサッカーは気分転換に最適で、勉強の合間の休憩時間には、外に出てボールを蹴っていました。

K.W. スイミング、英語、リトミック、体操教室、書道などいろいろ習っていました。英語とスイミングは、勉強と同じように少しずつ上達を感じられるのが楽しかったです。学年が上がり、通塾日数が多くなるに連れて徐々にやめていきましたが、最近になって英語を再開しました。

K.S. 母がピアノ講師なので、その影響でピアノを習っていたほか、水泳とサピックスイングリッシュにも通っていました。新型コロナウイルスが流行したタイミングで水泳は退会しましたが、サピックスイングリッシュは受験間際までオンライン授業を受けていました。ピアノは近いうちに再開したいと思っています。

サピックスキッズで培った習慣が日々の家庭学習の土台となった

原田 長い受験生活のなかで、好不調の波や気持ちの変化はありましたか。また、それをどう乗り越えましたか。

J.U. 低学年のころは、成績もあまり芳しくなく、だらだらと続けている感じだったので、「このままではいけない」と4年生のときに奮起しました。真面目に取り組むようになってからは、自分の成長が感じられて徐々に楽しくなってきました。

J.U.母 本人の言うとおり、低学年のうちには中だるみした時期もありました。しかし、「このままではまずい」とネジを巻き直してからは、意欲的に取り組むようになりましたね。サピックスキッズのこ

ろから、習ってきたことをその日のうちに復習するのが自然な流れとして身につけていたので、家庭学習を軌道に乗せるのにそれほど苦労しませんでした。そこは、早いうちから通塾していた大きなメリットだと思います。

K.W. 小学校とは違い、自分の成績や偏差値が数値化されることにプレッシャーを感じ、3年生の夏休み以降に「テストを受けたくない」と感じる時期がありました。先生に相談したところ、「無理をせず、やる気が出るまでひと休みしてもいいよ」と言われて、そのことばをきっかけに、気持ちを切り替えてがんばることができました。

K.W.母 勉強のモチベーションが下がってしまったとき、サピックスの先生が娘の気持ちに寄り添って励ましてくださったことは、わたしにとっても大きな安心材料となりました。4年生以降は、周囲の空気も変わりますし、優秀なお子さんもたくさん入室されます。それまでとは違うプレッシャーにさらされるわけですが、早い段階で自分の気持ちと向き合ったことで、「負けたくない」「もっとやりたい」というプラスの感情に切り替えられたのは幸いでした。成績が安定しないこともありましたが、その経験があったからこそ乗り越えられたのだと思います。

K.S. 3年生から4年生に上がったとき、それまでは遊びの要素も含まれていたカリキュラムが一気に受験モードになり、急に難しくなったと感じました。でも、1年生から2年生に、2年生から3年生にと、小さなステップアップを繰り返し経験してきたからこそ、大きな変化があっても冷静に受け止められ、前向きに対応できたように思います。

K.S.母 世間には、低学年から通塾することに対して「途中で息切れしてしまうのではないか」という懸念があるようですが、けっしてそうは思いません。本人が言うように、パズルのような感覚で取り組めた低学年の内容から、本格的な受験対策が始まる高学年の内容まで、無理なくステップアップできたことは、子ども自身にとっても比較的負担が少なかったのではないかと思います。

4年生から5年生にかけて志望校を決定 早期の目標設定が合格の鍵

原田 次に、皆さんが志望校を決めた時期と、決め手になったポイントなどを教えてください。

K.S. 程よく自由で、生徒が主体となって学校運営にかかわれるような学校がいいと思っていたところ、4年生のときに出合ったのが駒場東邦でした。在校生の様子を見て、直感的に「ここがいい」と思いました。家族には「ほかの学校も検討してみてもどうか」と進言されましたが、そう言われれば言われるほど、駒東への気持ちが強くなっていきました。

K.S.母 できるだけたくさんの学校を見せて、それぞれの良いところをアピールするよう心がけていましたが、本人は「駒東がいい」と言って譲りません。口にこそ出さないものの、わたしは内心「もし不合格だった場合はどうしよう」という不安でいっぱいでした。本人の知らないところでサピックスの先生に相談し、「ほかの学校にも目を向けてみてはどうか」と本人にそれとなく声を掛けてもらうようお願いしたこともあります。

K.W. もともと海外の大学にあこがれがあったので、「国際的な校風」「共学」「広々とした校舎」という条件から志望校を絞り込んでいったところ、それに合致していたのが渋谷教育学園幕張(渋谷)でした。4年生のときに足を運んだ文化祭で、在校生が優しく接してくれたことも、気持ちを後押ししてくれました。勉強のモチベーションが下がったときには、渋谷での学校生活を想像して、気持ちを立て直していましたね。

K.W.母 親としても、これからの社会を考えてグローバル教育や多様性のある学校を探していました。でも、渋幕は女子の最難関校の一つです。「真剣にがんばらないと合格は難しいよ」と何度も確認しましたが、本人は「できる」「がんばる」の一点張り。そのかたくなな姿を見て、親としても腹をくくりました。初志貫徹ということばどおり、その思いが最後までぐれなかったのは、わが子ながら感心しました。

J.U. 校則があまり厳しくなく、国際的で、活気のある学校に行きたいと思っていたので、青山学院はその条件に合った学校だと感じて受験を決めました。

J.U.母 息子もKくんと同じように、一度「これ」と決めたら意思を曲げないタイプです。悪く言えば頑固な性格ですが、志望校選びではそれが奏功したと思います。4年生から志望校の検討を始めて、5年生の時点ではしっかりと固まっていました。

原田 皆さん、志望校は比較的に決まっていたんですね。次に、受験直前に大変だったこと、苦労したことを教えてください。

K.W. 渋幕は、東京・神奈川の学校よりも10日ほど受験日が早いので、学力の面でも周囲より1週間早く仕上げなければならず、そこに苦労しました。直前期はこれまでの苦手な分野の復習を徹底するよう心がけていました。本番の算数の試験で、授業で取り組んだタイル切りの問題が出題されてびっくり。まさか出るとは思っていなかったので、「ちゃんとやっておいてよかった」と思いました。

K.S. ぼくも、過去問演習をはじめ、サピックスの先生に指示された駒東対策は抜かりなくやったつもりでしたが、それでも実際の入試問題を見たときは、そのボリュームの多さに面食らいました。ただ、冷静に解き進めていくと、「このやり方は以前の過去問にも出てきたな」と思う部分が多くもあり、先生のアドバイスの的確さをあらためて感じました。

J.U.母 親の立場から言えば、プリント整理が大変でしたね。スキャンして保存するようにしていましたが、いざ「この単元だけをテキストで復習したい」となると、ピンポイントで引っ張ってくるのが難しく、「あれはどこいった？」「これはどこいった？」と常に探し物をしていたような気がします。

K.S.母 わが家も、平常授業や土曜志望校別特訓のプリント管理は完璧とはいえない状況でしたが、SS 特訓の志望校別講座のテキストとプリントだけは、何がどこにあるかを把握しておき、すぐ手に取れるところに保管していました。すべてをわかりやすく整理整頓するのは難しいので、優先順位の濃淡をつけておくことが重要だと思います。

K.W.母 とにかくやるべきことが多いので、わが家では、「こういう分野が苦手なのですが、どのテキストに取り組めばいいですか」「過去問は何年分解けばいいですか」と先生に個別に質問し、優先度を確認しながら進めていましたね。小さなことでも「迷ったら先生に聞く」を徹底したことが、合格につながったのかなと思います。

最後は「知恵より根性」の精神と 志望校への熱意で合格を手繰り寄せる

石垣 次はお母さま方に質問です。お子さんをそばで見守られてきて、幼少期と変わらないところ、反対に受験を通して大きく成長したところを教えてください。

K.S.母 息子は、幼いころから精神面で弱いところがあったのですが、6年生の1年間で、見違えるほどタフになりました。落ち込むことや、つらいことがたくさんあったからこそ、マイナスな感情も上

手にコントロールできるようになったのだと思います。それが中学受験のいちばんの収穫だといっても過言ではありません。

K.W.母 幼少期から、自分が思っていたような成果が得られないと、泣いて悔しがる子どもでした。そんな負けず嫌いな性格だったからこそ、ここまでがんばってこられたように思います。仮にうまくいなくても「次がある」と、自分の気持ちを切り替えられるようになったところは、大きな成長ですね。

J.U.母 昔から変わらないのは、素直なところ、やると決めたらやり抜くところ、そして片付けができないところ(笑)。片付けに関しては半ばあきらめています。これから先も、何か壁にぶつかったときには、これまでの素直さと気持ちの強さを思い出して乗り越えてほしいと思います。

石垣 中学での目標や、将来の夢はありますか。

K.S. ぼくは、映画や遊園地などのエンターテインメントに興味があるので、人を喜ばせたり、楽しくさせたり、笑顔にしたりするような仕事に就きたいと思っています。中学校では、少しでもそんな自分に近づけるような活動をしたいです。

K.W. 夢中になると、一直線に突き進む性格を生かして、将来は研究者をめざしたいと思っています。今はまだ、その専門を一つに絞ることはできませんが、中高生活でいろいろな経験をしながら、興味のある分野を見つけていきたいです。

J.U. 英語の学童に通っていたことで、外国人と日本人との考え方の違いにとっても興味をひかれ、国際的な機関で働きたいと思うようになりました。異なる価値観を受け入れつつ、世界規模の課題解決に貢献できたらうれしいです。

原田 それでは最後に、これから中学受験にチャレンジする後輩たちに向けてメッセージをお願いします。

K.W. くじけそうなとき、わたしの心の支えになったのは、GS 特訓のときに先生に聞いた「知恵より根性」ということばです。たとえば、規則性や場合の数の問題では、計算で答えを出すのが難しいと思ったら、すぐ切り替えて、すべてのパターンを書き出すようにしていました。たとえ泥臭くても、貪欲に答えを求めにいくという“根性”は受験において絶対に必要です。最後は、志望校への愛を忘れずにがんばってください。

K.W.母 思うような結果が出ないと、「志望校を変えたほうがいいのか」と迷うこともあるかもしれません。でも、大事なのは、本人が志す学校の入試本番で、持てる限りのすべての力を出し切ることです。子どもとサピックスを信じて、最後まで走り抜いてください。

J.U. 基本的な問題を落ち着いて解くことが大事です。それによってミスが減りますし、自信にもつながります。受験中は自分の体力と精神力の勝負ですから、日ごろから意識して鍛錬しておくことをお勧めします。

J.U.母 中学受験は大学受験と違って、親の役割が大きなウェイトを占めます。今回の経験から学んだのは、親が迷走すると子どもも迷走するということです。迷ったときは、周囲の力を借りて問題を解決し、親の気持ちがぐれないうことを最優先にしてがんばってほしいと思います。

K.S. ぼくの場合、「駒東に行きたい」という気持ちが勉強の原動力になったので、本当に行きたい学校を見つけたら、偏差値は気にせず、情熱を持って努力してほしいです。最後はその情熱が合格に導いてくれるはずです。

K.S.母 積極的に学校見学に足を運んでみてください。いろいろな学校の雰囲気を実際に肌で感じるなかで、親子で「ここに行きたい」というところが見つかれば、そこから逆算して、今やるべきこ

とがクリアになります。皆さんの健闘をお祈りしています。

石垣 志望校合格の背景には、皆さんの不断の努力はもちろん、ご家庭の温かいサポートがあったことがよく伝わってきました。あんなに小さかった皆さんが、さまざまな苦勞を乗り越えて、新しいステージに羽ばたこうとする姿が非常に頼もしく見えます。本日はありがとうございました。